

小倉井雑学大学

だより

第2号

平成10年9月1日発行

開校から五か月

広がる雑学大学の可能性

「学んで時に之を習う、また説
ばしからずや。朋有り、遠方より
来たる、また樂しからずや。・・

・」これは言わずと知れている『
論語』冒頭の章句です。『論語』
が前五・六世紀の哲人孔子と、そ
の周辺の人々との言行録であり、
『聖書』とともに、人類最多の読
者数を持ち続ける古典中の古典で
あることは、周知の事実です。そ
れによれば、孔子たちにとって「
学ぶ」喜びは、「遠方から訪れた
同学の友のとの交歓」に匹敵する
ほどの、いわば背筋がゾクゾクす
るほどの愉樂であったということ
になります。

わが雑学大学も開設してすでに
四箇月、私たちは果たしてどのよ
うな学ぶ喜びを獲得し、実感した
でしょうか。孔子教団におけるそ
れと、同質・同程度とは言えない
までも、それぞれの講話の中か
ら、しみじみとした共感や、静か
な納得といった知的満足感を味

わった方も多いと聞いています。

多彩なテーマで

広がる可能性

これまでの八回は、まことに「
雑学」の名に恥じない多彩さで、
既成概念としての学問の領域をす
でに大きく踏み越えた展開がなさ
れました。国際理解・健康管理・
自然保護・漫画製作・介護保険・
日本史裏話・食文化・福祉行政と
いったテーマが、次々と展開され
たのですから。このテーマの多彩
さにこそ雑学大学の今後の可能性
は存しているにちがいありません。
私たちの町には、まだまだ、
さまざまな分野のさまざまな人材
が確かに居住しておられます。ど
うか出し惜しみされることなく、
進んで名乗り出て下さい。ご自分
の専門的知識技能を、見識・主張
・学殖を、私たち市民の前に、惜
しげもなく、ただで開陳して下さい。

い。
受講・来聴の方々は、毎回すで
に数十名から百名以上に達してい
ます。教室の真摯な雰囲気は、「
教授」の方々も喜んで下さってい
ます。まさに雑学大学の今後の可
能性は、この両者の協力によって
のみ豊かなものとなるはずで

(学長 田部井文雄)



第五回講義

六月七日

『沈黙の艦隊』の制作近辺

教授 かわぐちかいじ氏

漫画を描き始めて約三〇年。学生当時雑誌に載ったことが、仕事を始めたきっかけである。題材はそれまでギャング・探偵・やくざというようなあまり世の中で評価されることのない漫画を描いていたが、講談社から、政治・経済・軍備等を扱って見たらどうかということが、『沈黙の艦隊』を書くきっかけとなった。

今から十年前、世間には日米関係の先行き不安感があり、それまでタブー視されていた「自衛隊」を題材にしてみた。今まで漫画を余り読まなかった人たちからの反応が多かったのは、予想外であった。編集者と読者も一緒に漫画のシュミレーションの中にあつた。「沈黙の艦隊」の中で、世界の警察をアメリカのような一つの国に任せるのではなく、国から独立させてみるという試みをした。多くの人の心理的不安感が、広く読まれた理由と思う。

漫画を描くために、海外を取材

して、ヨーロッパの絵画などを見て回り、レオナルド・ダヴィンチを題材にしたものを書いてみたが、これは余り成功しなかった。しかし、日本の漫画文化がどうして盛んなのか考えながら、ヨーロッパの絵を見てみると、ヨーロッパの絵は余りにもリアルで、たまにみた日本の浮世絵展と比較してみたら、その違いにかえて日本文化に新鮮味とほっとするものを覚えた。そして同時に漫画と相通じるものを感じた。人間の書き方にしてもおよそリアルとはかけ離れた書法である。

ダヴィンチにしても距離感を正確につかむ目を持っており、ピカソにしてもあえてその正確な描写をこわして、よく知られている絵を描いたのであり、ヨーロッパでは正確に書くということにかなりの価値を置いていた。

しかし、日本では写楽の絵に見られるように、正確さよりも面白さに価値を置く価値観が古くからあったのである。漫画というのは、少々現実離れをしていても、そのことを受け入れていく読者があるって成り立つ。日本人は、大昔からその能力があつたようだ。

第六回講義

六月二一日

『私人としての徳川慶喜』

教授 志茂田景樹氏

今年のサッカーのワールドカップのような熱に浮かされた大騒ぎが、嘉永六年ペリリが浦賀に来た時もあつた。その時に起きた運動は、攘夷運動であつた。そしてそれを一番推進していたのが、徳川慶喜のいた水戸藩であつた。水戸藩にはもともと伝統的に尊王思想が浸透しており、ペリリ来訪とタイミングがあつたのである。

十三代將軍家定になつた時にまず起きたことは、家定には子供がなく將軍継承問題であつた。候補は紀州の徳川慶福と慶喜であつたが、当時の大奥は、贅沢をきらう水戸藩に反発して、徳川慶福を押していた。

慶福が十四代將軍家茂になつた時、慶喜は謹慎をとかれ、將軍後見職についた。慶喜は人物としておもしろいエピソードは残っていない。勉強好きで、新し物好きだったようだ。長い間の謹慎中に、西洋の絵はがきを集めたり、画材を集めたりしている。

將軍後見職になつた慶喜は、尊王攘夷の嵐が吹き荒れていた京都に入り、長州と結びついた過激な公卿たちを追い出すクーデターを起し、薩摩藩の影の力もあつて、このクーデターは成功した。慶喜は積極的に外国との交渉を行った。しかし、後に薩摩藩と長州が手を結び、倒幕の動きに出る。

病弱の家茂が死去し、慶喜が十五代將軍になつた。慶喜は京都と大阪を往復する暮しをしていて、一度も江戸城に入ることはなかった。海外への好奇心は強く、外国人とはよくあつて話をしていた。優柔不断な性格と言われているが、勉強家で理想は高く、理想としたものは坂本龍馬と同じものか、それ以上だったのではないか。

孝明帝が毒殺され、薩摩長州が開国へと歩調を合わせたのを、一挙に片づけようと鳥羽伏見の合戦をするが、これに負け、その後は表舞台から姿を消す。

慶喜は先を見通す目は卓越していたが、政治家としての資質は疑問である。また、ハーレムのような大奥を持たなかったのは慶喜の近代性だと思う。

第七回講義 七月五日

『食へることとはどんなこと
—ハーブと果物とスパイスと—』

教授 今川香代子氏

地球上に住む人間は、自然から多大な恩恵を受けている。最近はやローロッパからさまざまなハーブが紹介されブームになっているが、西欧のハーブは大体において身体を温める働きがあり、熱帯でとれるスパイスは、逆に身体を冷やす効果があつて、どちらも昔から薬用に使われてきたものだった。

植物は一つ一つ実にすばらしい特質を持つている。眼病に効くもの、消化を助けるもの、発汗作用のあるもの、血液を浄化するもの、殺菌作用を持つものなどあり、最近イチヨウの葉が目の毛細血管に効くと注目され、ドイツで薬品化されたし、ブルーベリーは下痢に大変効果があることは、昔からアメリカ・インディアンの間で知られていた。特に子供のエキリなどにまずベリーを湯につけた青い汁を飲ませた。

私たちが雑草と邪魔にしているオオバコやナズナ、タンポポにも

実はすばらしい薬効がある。オオバコはかつてイギリス人が九つの薬草のひとつとして必ず持ち歩いたものだったし、タンポポは胃の薬でもある。

十四世紀に存在したアステカ王国では、曆と共にシンボルのな食べ物があった。人間に必要な力強さ、敏感さ、用心深さ、優雅さ、そして心の豊かさなど、二〇に分けられたシンボルがあり、それを願つて魚、野菜、肉、果物が食べられた。

食べる—ということとは、単なるカロリー計算で献立を作るのではなく、生命をもつ魚や野菜、そして肉となる動物のエネルギーを人間の体内に入れること、つまり動植物の生きる活力を吸収することである。それによって人間の細胞は新しく生まれ変わり、活動していく。吸収したエネルギーと共に、人間の精神はより強く、より聡明になり、より健康に恵まれると信じていたのだった。

こうしたすばらしい思想を、現代の私たちもおこし、そうした精神で食べ物を食べれば、脳も細胞も生き生きと若返るのではないだろうか。

第八回講義 七月一九日

『豊かな福祉の鍵は
自治体にある』

教授 加藤良重氏

福祉の中でも、今は高齢福祉のための介護保険が最重要課題。平成十二年の介護保険導入のために今年四月準備組織を作り、現在六五才以上の方全員を対象にアンケート調査を実施中で、サービスの必要量などの実態調査をしている。計画で保険料も決まる。

介護保険の運営責任者は小金井市で、四十才以上は強制加入。保険料は、四十〜六四才の方は医療保険の保険料と共に支払い、六五才以上の保険料は年金(月額三万円以上)から天引きが原則で、天引き以外は市が直接徴収する。約四千五百人に対しては市が直接徴収するが、どこまでできるか不安もある。更に、現在小金井市民で特別養護老人ホームに入っている方の約二割、在宅サービスセンターの利用者の五割以上が対象外になると考えられ、市が一般財源で補う必要も出てくる。この制度には問題も多いが、介護をされる方

の長期化、介護する側の高齢化、核家族化なり、家族の介護に限界があるために介護保険が必要で、社会全体で支える必要がある。

在宅サービスでは訪問介護が中心。来年試行的に二十四時間体制を行う予定である。更に通所サービスと短期入所を加えた在宅福祉の三本柱の基盤整備が課題。二年後の実施を控えて、ハード面の実現が急務で、十月には本町二丁目にデイサービスセンターがオープン。中町二丁目の特養ホーム(八十人)の建設の見通しが出てきた。十二年四月から開始予定。これによって、ハード面の基盤整備は一応整う。

介護保険制度の意味は、第一に福祉の考え方の変化である。現在は、福祉は行政が決める措置制度であるが、本来憲法の規定から見えて権利であり、これからは対等の契約関係になる。第二に、身近な政府としての市からのサービスを提供する、地方分権の流れに沿っている。第三に、地方自治を学習し実践をする場である。

二一世紀は不安な面もあるが、考え方次第で活気のある豊かな社会作りができる。

今後のカリキュラム

- 9月 6日「子供たちの健やかな成長を願ってー地域・学校・家庭のはたす役割ー」
平林 忠氏（市立小中学校校長会会長）
- 9月20日「数字で表した名字の話」
天野巡一氏（岩手県立大学教授）
- 10月 4日「フランス革命とマリーアントワネット」
兵頭信彦氏（元都立西高校長）
- 10月18日「山と文学ー多摩・秩父の山歩きと不思議物語」
竹村鍊郎氏（東久留米語らい会主宰）
- 11月 1日「北京の庶民生活」
吉武百合氏（中国語通訳）
- 11月15日「オバQ、おそ松君の誕生」
たみお道雄氏（元「少年サンデー」編集長）
- 12月 6日「海外旅行でスケッチする」
永沢まこと氏（イラストレーター）
- 12月20日「河川の生物と自然保護ーホタル、アユ、貝類の生活史から考える」
西脇三郎氏（筑波大学医療技術短期大学名誉教授）

平成11年

- 1月17日「世紀末ウィーン文化とユダヤ人」 村山雅人氏（國學院大学教授）
- 2月 7日「草食の思想ー日本人の特性を考える」 國米家己三氏（元産経新聞記者）
- 2月21日「苗字からルーツ・先祖を探る」 野中冨雄氏（日本家系図学会理事）

3月は1周年企画を予定しています。

- ・教室は小金井工業高校会議室。時間は午後2時～4時です。
- ・スリッパをご持参下さい。
- ・参加費は無料。出席はいつでも自由です。ご都合に合わせてご参加下さい。

発行責任者 五十嵐京子
小金井市本町

☎&FAX

（夜間）

編集後記

長い梅雨がやっと明け、暑い夏も先が見え、ホットとしました。教室には冷房がないので、教授・受講生の皆様にはたいへん熱い思いをおかけしました。

その中で、教授の講義に熱心に耳を傾ける皆様に、感動いたしております。

充実した内容にすべく努力いたしますので、今後ともご期待下さい。

（佐藤記）

